

けいはんな学研都市 「リサーチコンプレックス推進プログラム」本採択 ～i-Brain×ICT「超快適」スマート社会の創出～

2016年9月、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市、以下、けいはんな)が文部科学省および科学技術振興機構(JST)の補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム(以下、RC)」の本採択を受けた。2015年度に採択された神戸医療産業都市に続く採択で、現在プログラムが進められている3拠点のうち、2拠点が関西のプロジェクトとなる。ここでは、けいはんなのRCの取り組みを紹介する。

RCの概要

RCは、世界に誇るイノベーションの推進基盤を形成するとともに、地方創生を実現することを目的に、文部科学省と科学技術振興機構が進めている事業である。地域に集積する産学官金のプレイヤーが研究開発、事業化および人材育成を一体的かつ統合的に展開する事業に対し、1地域あたり年間3～7億円の支援を最長2019年度まで受けられる。

今回採択されたけいはんな、および川崎市の2拠点と、2015年度に採択された神戸医療産業都市を合わせて、現在3拠点が採択されている。

神戸医療産業都市では、兵庫県、神戸市および理化学研究所を中心に、健康に関する情報を集めたデータベースを通じて疾病予測を可能とするシステムの構築をめざしている。川崎市では、川崎市および慶応義塾大学を中心に、ヘルスケア領域の技術革新と社会システムによる新産業・サービスの創出をめざしている。

けいはんなRCの取り組み

けいはんなのRCでは、京都府や

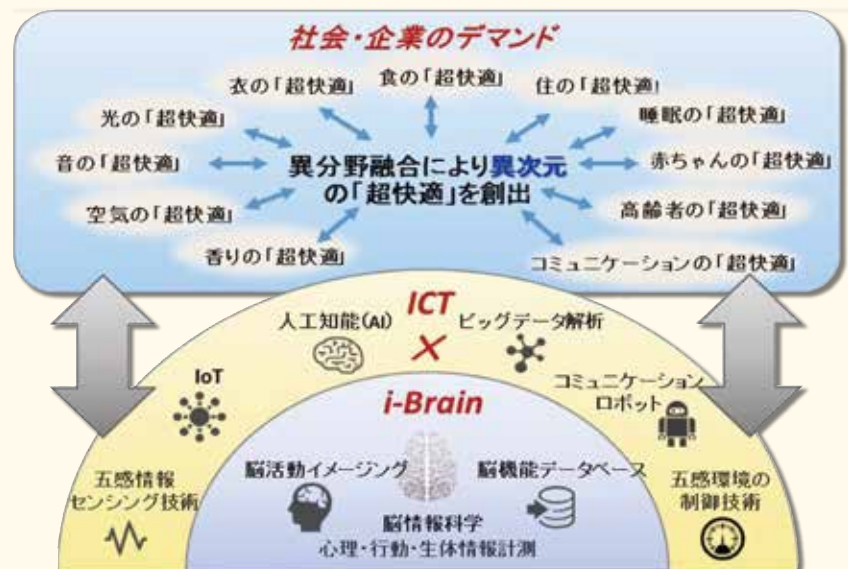
けいはんなに立地する大学、研究機関および企業で構成されるリサーチコンプレックス協議会が主体となり、あらゆる人がココロの豊かさ・安らぎを感じ、そして一人ひとりが能力を発揮して生きがいを持って参画できる「超快適」スマート社会の実現をめざしている。

けいはんなには、ヒトの心理・行動・脳・生体情報データに基づいてココロを定量的かつ客観的に捉える技術群i-Brainと、AI(人工知能)、ビッグデータおよびIoTといった最先端ICTに関する優れた技術を持つ大学・研究機関が集積しており、これらの技術を今回採択されたRCの

技術開発のコアとしている。

また、けいはんなには「衣・食・住の超快適」「光・音・空気・香り等の空間の超快適」「高齢者・赤ちゃんの超快適」などココロの豊かさを創出する事業に強い関心を持つ企業が多く立地しており、これらのデマンドと技術群i-Brainおよび最先端ICTを融合することにより、ココロに感動・活力・共感を生み出し、異次元の「超快適」を創出できるとしている。

具体的には、オフィスにおける知的生産性の向上、病院・介護現場でのストレス緩和などをもたらす知的環境デザインの実現、赤ちゃんから



高齢者に至る各ライフステージの心身快適モニタリングを通じた衣食住のイノベーション、そして非言語コミュニケーション技術を活用しヒトの心に寄り添う次世代ロボット・次世代遠隔コミュニケーションシステムの開発等を進めることとしている。

けいはんなのめざす エコシステム

今後は、大学、研究機関、企業および住民が共創してイノベーションの連鎖を自律的に次々と引き起こす「けいはんなイノベーション・エコシステム」を構築し、けいはんな全体に展開していく(図)。

そのエコシステムの構築に向けて、①異分野融合研究開発、②人材育成、③事業化支援などの取り組みを推進するとともに、RCのプログラム終了後も持続的に取り組みを継続できるよう環境を整えていく。

2016年度は、異分野融合技術の社会実装に向けた「超快適」実証実験



環境をけいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)内に設置するとともに、けいはんな全域をキャンパス化した人材育成の仕組みを構築していく。また、事業化の成功事例を早期に作ることや、研究機関、企業とのネットワークの形成にも取り組んでいく。

当会では、各府県・政令市に設置

されている公設支援研究機関や民間の産業支援機関が連携してものづくりの一連のプロセスを支援する「関西支援機関ネットワーク」の取り組みを進めている。このネットワークの活用を通じて、けいはんなRCでの研究開発や事業化を加速させ、エコシステムの構築に貢献していく。

(産業部 武田信明)

Interview

けいはんなのRCで着実な成果を

細井裕司

けいはんなRC中核機関マネージメントチームオーガナイザー
(公立大学法人奈良県立医科大学理事長・学長)



日本人は、「モノの豊かさ」よりも「ココロの豊かさ」を求めるようになってきています。けいはんなのRCでは、あらゆる基礎技術につながる脳科学をベースに、事業の評価が困難な「ココロの豊かさ」に挑戦することとしました。けいはんなは、優れた研究機関や企業が集積し高いポテンシャルを有しているだけでなく、住民参加による実証がしやすい点で非常に強い武器を持っており、RCで成果を残せるものと確信しています。

私はRCに参画している32の研究機関・企業のオーガナイザーとして、プロジェクトのマネージメントに取り組んでいます。大事なことは「責任の明確化」と「合理性」であり、それぞれのプロジェクトの責任を明確にし、理にかなった方法でプロジェクトを進めることが私の使命です。また、奈良県立医科大学が提唱し進めている医学を基礎とするまちづくり“MBT”(Medicine-Based Town)の取り組みは、けいはんなのRCと通じるところがあり、私の経験を生かせると考えています。

そして、たとえ小さな成果でもしっかりと発信し、けいはんなの魅力やメリットを示すことが、今後のけいはんなへの企業参画を促す上で必要なことです。着実に成果を出せると期待できるテーマのひとつに、プロデュース能力のあふれる人材の育成があげられます。人材は事を成すための血液みたいなもので、けいはんなのRCを通じて人が育ち、その血を受け継いだ人が世界で活躍することは、それだけでも素晴らしいことです。“けいはんな発”の人材のブランド化に貢献していきます。